特集1

博士論文を書くということ
あのときの問いといまの問い

博士論文を書くということは，自らの「問い」の答えを導くための1つの集大成であり，またそれは，研究者としての道の第一歩です。

学位を得ることはゴールではなく，そこから問いを発展させながら，研究に取り組み続けていくことが重要かと思われます。

「研究の問い（＝リサーチクエスチョン）が最も大事」といわれながらも，その「問い」を見つけたり，精錬させていくことに壁を感じるという声も聞きます。

いま，第一線で活躍している研究者の方々は，どうやってその壁を乗り越え，いまの問いに向き合っているのでしょうか。

本号ではまず特集1として，博士論文を執筆した経験を踏まえ，「問い」をどのように見いだして研究に結びつけたのか，さらにその問いがどう発展し，いまの研究に活かされているのかを，さまざまな方々に，さまざまな視点からまとめていただきました。

『看護研究』編集室

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2014

2026/10/15 05:29:23